

# DebugView操作説明

2019年9月11日  
株式会社ウィンテック

DebugViewは、MX-6000とC T I アプリケーション間の通信情報を記録するツールです。

\*DebugViewは、マイクロソフト社提供のアプリケーションです。

- Dbgview.exe ← DbgViewStart.exe と同一フォルダに配置してください
- DbgViewStart.exe ← **こちらを実行してください**
- Dbgview\_manual.pdf ← 本書

該当PCで「初めてDebugViewを起動」される場合は、MX-6000のドライバ・バージョンにより起動手順が異なります。

## ●ドライバ・バージョンが「DLL : Ver 1.1.3.0 SYS : Ver 1.1.4.0」以降である場合

C T I アプリケーションを実行したまま、DebugViewの起動が可能です。

次ページ「**操作手順**」より実行してください。

※2016年1月13日以降出荷分のセットアップCDが該当します。

(セットアップCD管理番号 : NO. 160112以降)

## ●ドライバ・バージョンが「DLL : Ver 1.1.3.0 SYS : Ver 1.1.4.0」より古い場合

一旦C T I アプリケーションを終了させる必要があります。

最終ページ「**旧ドライバ時の操作手順**」より実行してください。

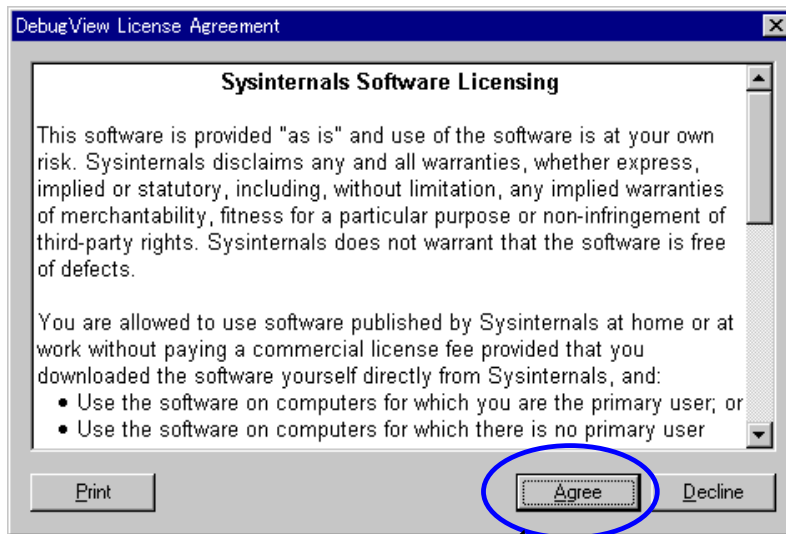
※2016年1月13日より前のお荷分のセットアップCDが該当します。

上記のどちらか不明な場合は、ドライバ・バージョンを確認されるか、または「旧ドライバ時の操作手順」より実行してください。

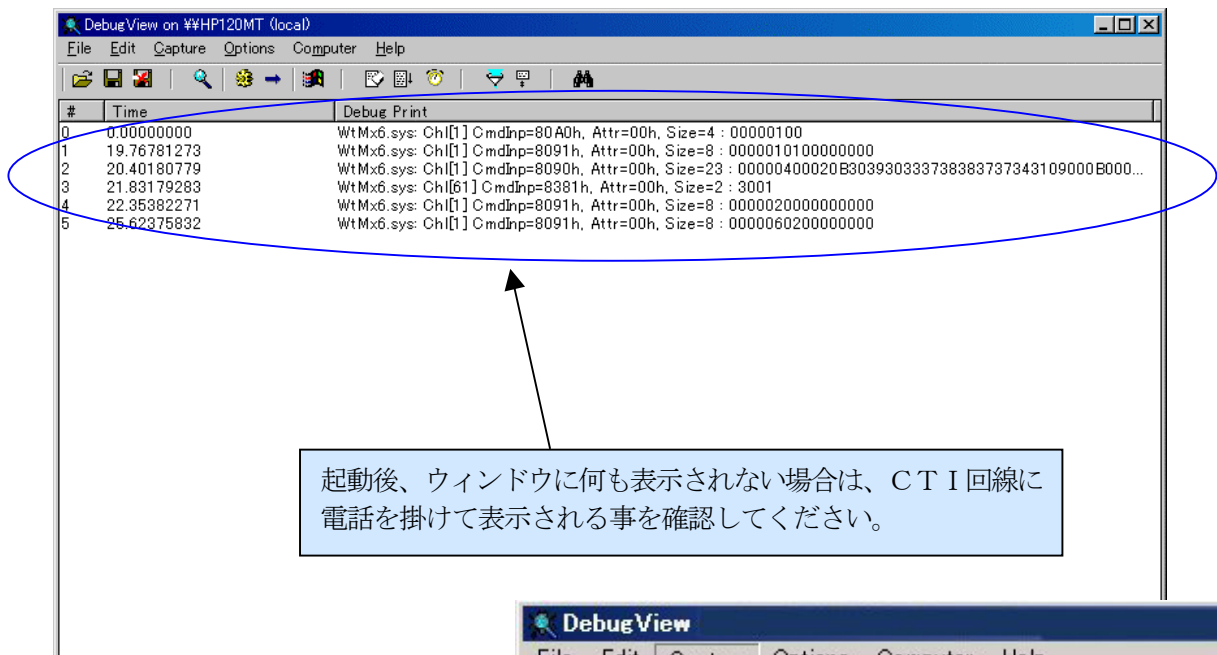
## < C T I アプリケーション起動中のドライバ・バージョン確認方法 >

- ①USB転送エラー表示ツール(WM6Error.exe) のタイトルバーを右クリック→バージョン情報  
\* 「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「MX-6000 Tools」→「システム」
- ②Device DSP Monitor(¥MxMon.exe) のメニューバー → ヘルプ → バージョン情報  
\* 「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「MX-6000 Tools」→「システム」
- ③デバイスマネージャー → ユニバーサルシリアルバスコントローラ → MX-6000 USB2.0 Device  
→ 右クリック → プロパティ → ドライバー → ドライバーの詳細ボタン

1) DbgViewStart.exe を起動（管理者として実行）してください。

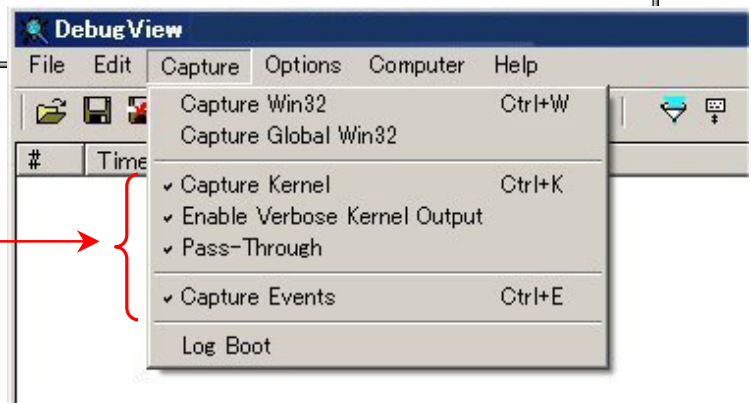


クリック ※本画面は最初の起動時のみ表示されます。

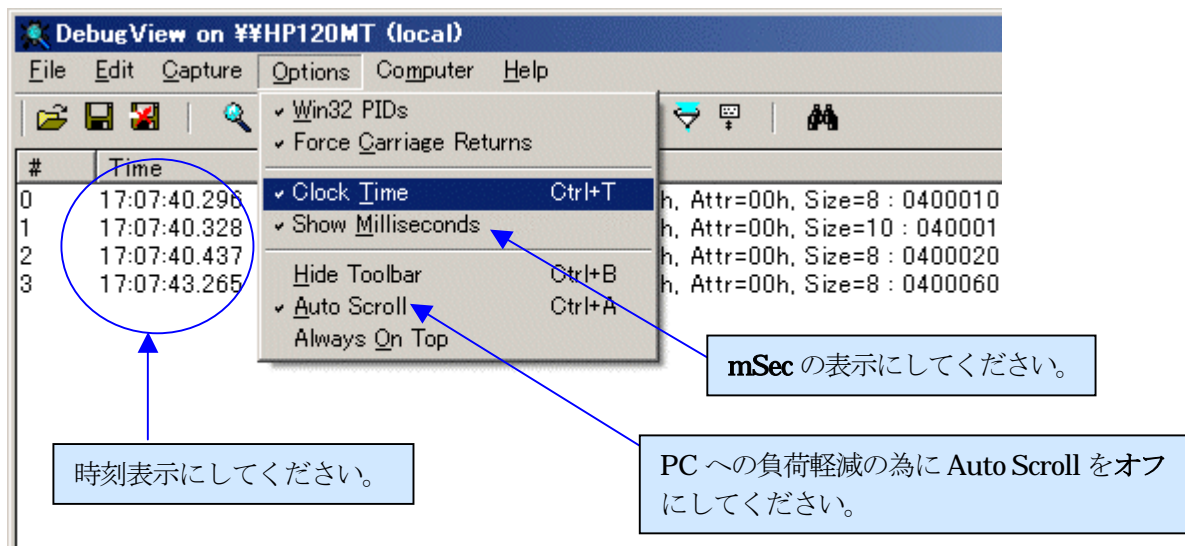


起動後、ウィンドウに何も表示されない場合は、C T I 回線に電話を掛けて表示される事を確認してください。

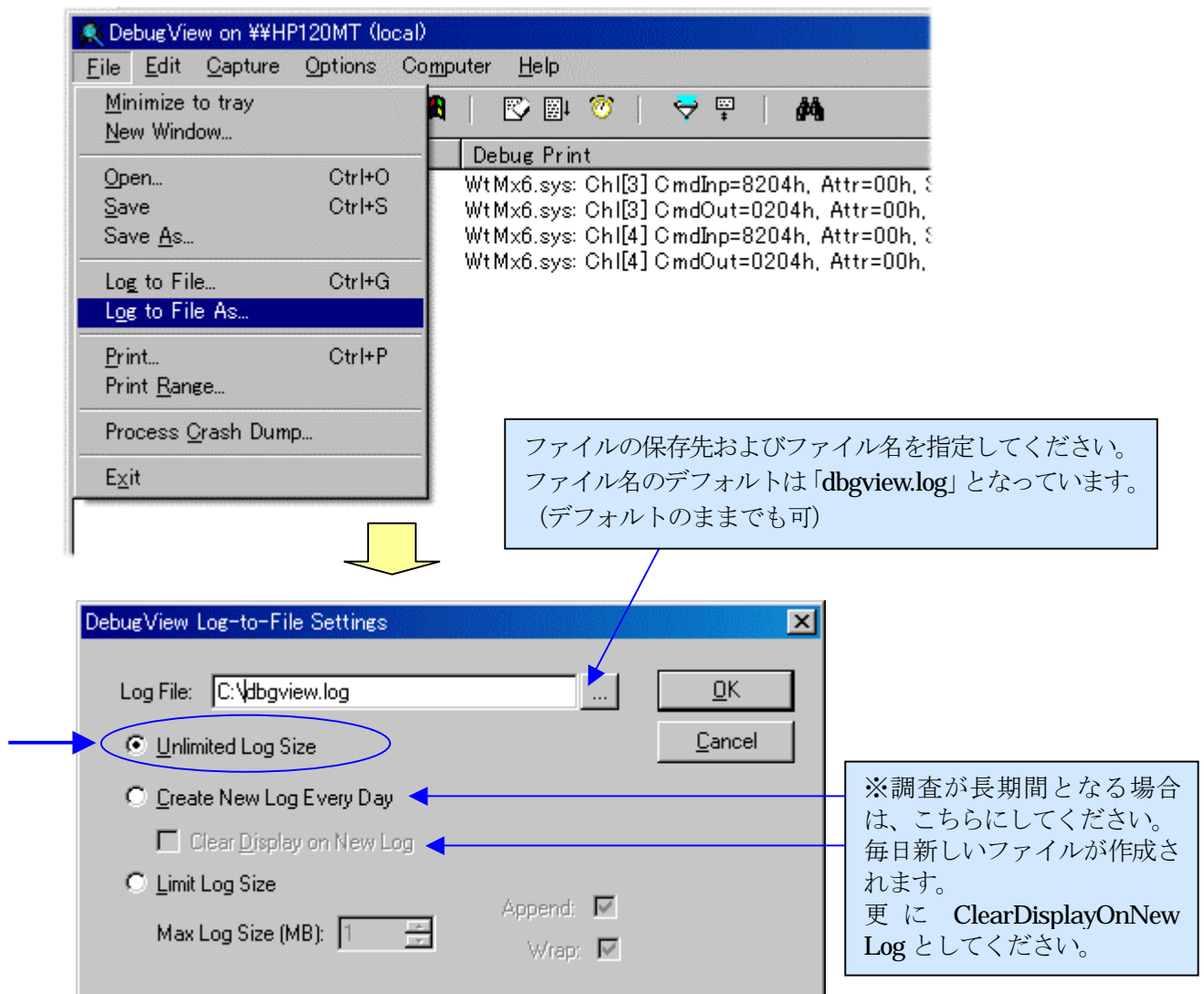
※表示されない場合は「Capture」設定の右記チェックが入っているか確認してください。



- 2) 「Time」表示を時刻表示に変更してください。  
「Options」→「ClockTime」をクリックしてください。

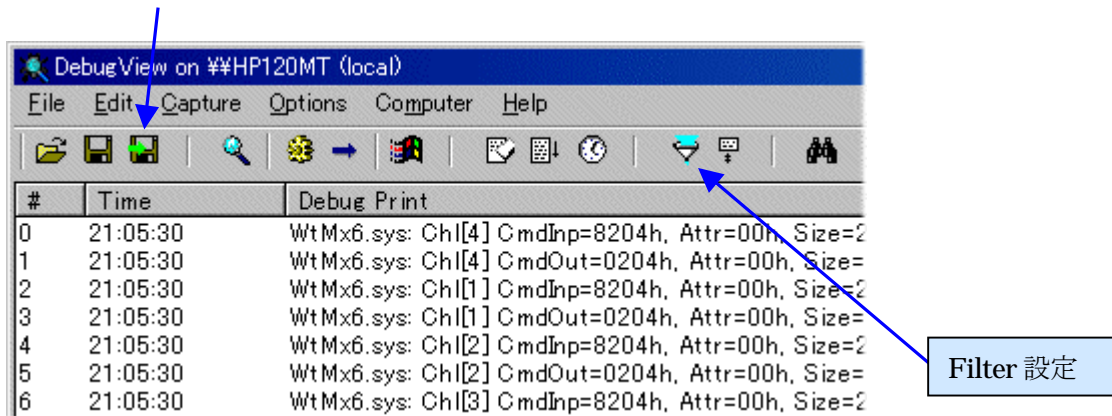


- 3) ログ出力設定を行ってください。  
「File」→「Log to File As...」を選択してください。



- 「OK」 クリックによりファイルへのログの書き出しが開始されます。

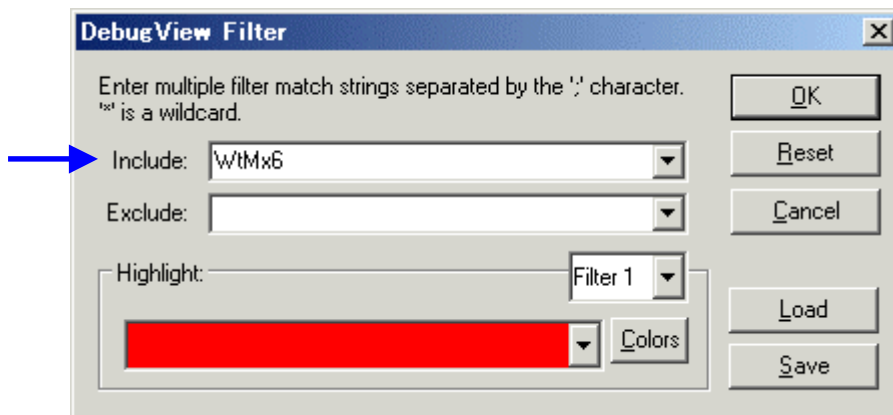
ログ出力が開始されますとアイコンが下記表示に変わります。



●本ツールはMX-6000専用ツールでは有りません。他のソフトがデバック出力を実行している場合には、その全てが表示されてしまいます。

MX-6000の情報は、「Debug Print」の欄の先頭が「WtMx6.sys:」で始まります。

それ以外が頻繁に表示されるようであれば、「Filter アイコン」をクリック後「Include=WtMx6」を指定してください。

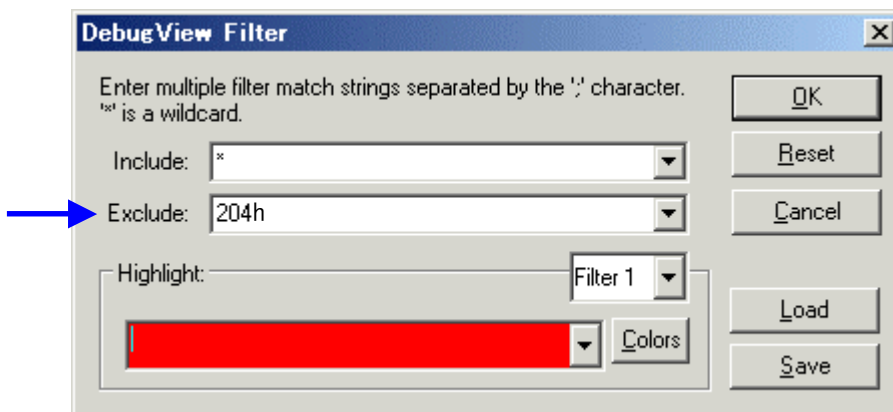


●MX-6000のW/D監視機能を設定されている場合には、下記W/Dに関する通信が頻発いたします。

WtMx6.sys: Chl[1] CmdOut=0204h, Attr=00h, Size=2 : 0000

WtMx6.sys: Chl[1] CmdInp=8204h, Attr=00h, Size=2 : 0200

本ログ取得においてW/D情報が不要な場合は、「Exclude=204h」を指定してください。

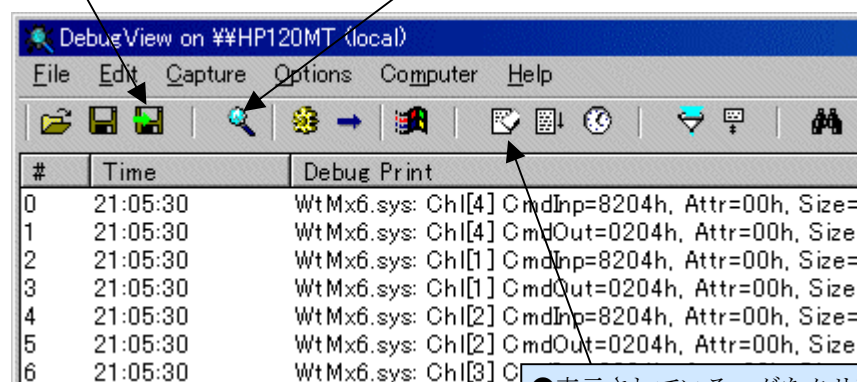


※連続取得の前に、ファイルに正しく出力されているか、内容をご確認願います。(テキストファイル)

## 【その他のアイコン説明】

● ログファイルへの書出しが一時停止します。  
再クリックにより再開します。

● ログ表示が一時停止します。  
再クリックにより再開します。



● 表示されているログをクリアします。  
\* ログファイルはクリアされません。

## 4) 事象・障害が発生した場合

### ① Dbgviewを終了させてください。

「閉じるボタン」または「File → Exit」により Dbgview を終了させてください。

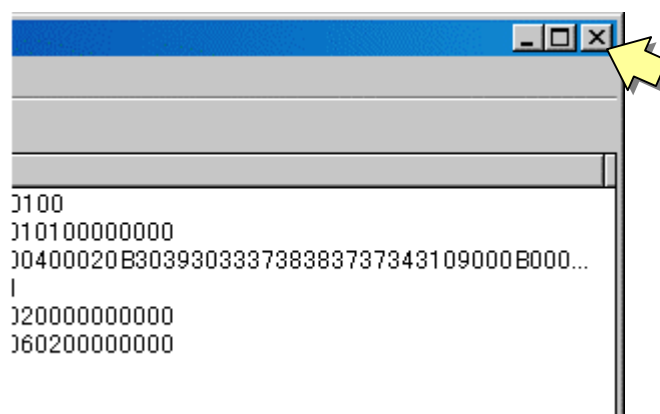
自動的にログファイルもクローズされます。

\* 先にログファイル書出し停止を実行しても問題ございません。

### ② その時の状況を記録願います。

- ・ 障害が発生した時刻
- ・ 障害が発生したCH番号

### ③ ログファイルを弊社に送付願います。



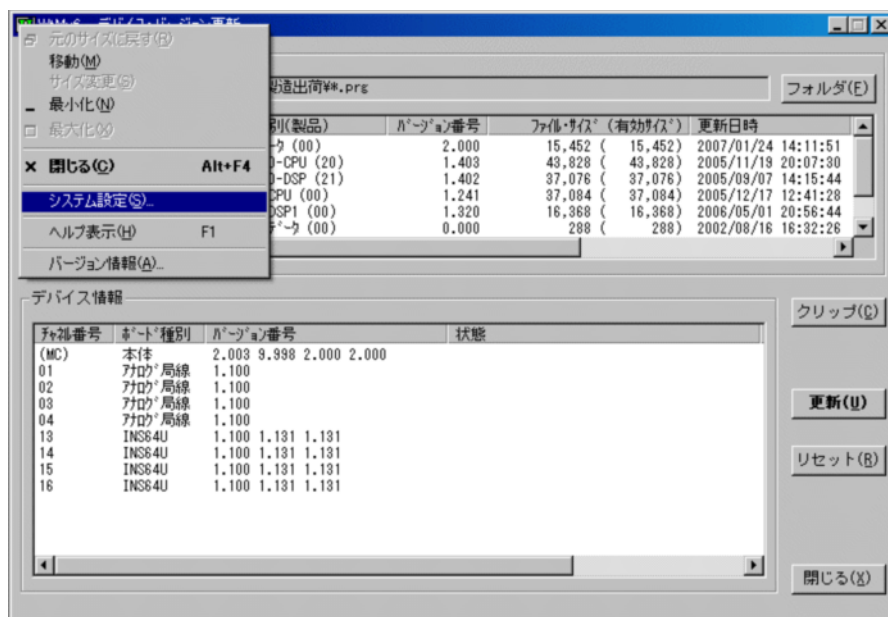
以上で終了です。

## 旧ドライバ時の操作手順

古いMX-6000ドライバ・インストールPCで初めてDebugViewを起動する場合の手順です。

※ 2回目以降の起動では、操作手順に進んでください。

- 1) MX-6000と接続されているPCのCTIアプリケーションを終了させてください。
- 2) MX-6000バージョン更新ユーティリティを起動してください。  
※ 「スタートメニュー」→「すべてのプログラム」→「MX-6000 Tools」→「バージョン更新」  
(MX-6000 Tools がインストールされていない場合は、WM6VerUp.exe を直接実行してください)
- 3) タイトルバーのアイコンを右クリックし「システム設定」を選択してください。



- 4) 内容を下記に変更後、OKをクリックしてください。



※OKクリックにより「MX-6000リセットの確認ダイアログ」が表示されますので「はい」をクリックしてください。MX-6000のハードリセットが実行されます。

※既に「FFFF」になっている場合は「キャンセル」してください。

- 5) バージョン更新ユーティリティを終了させてください。
- 6) MX-6000と接続されているPCのCTIアプリケーションを起動してください。
- 7) 2ページの「操作手順」に進んでください。